

「あしたは しゅくふくしきですね」

「はい、神さまが ほんとうに ながいあいだ  
まちのぞまれた しゅくふくしきです」

まことのお父さまと まことのお母さまは しゅくふくしきの まえの日、  
せつじつな おいのりをされました。

「アダムと エバを そうぞうし よろこばれた 神さま！  
アダムと エバが 神さまの みことばどおりに せいちょうしたら  
しゅくふくけっこんを さずけようとされた 神さま！  
しゅくふくけっこんをした アダムと エバが まことの父母として  
子どもを 生む すがたを ごらんになろうとされた 神さま！  
まことの父母のかついに えいえんに ともに  
いらっしゃろうとされた 神さま！」



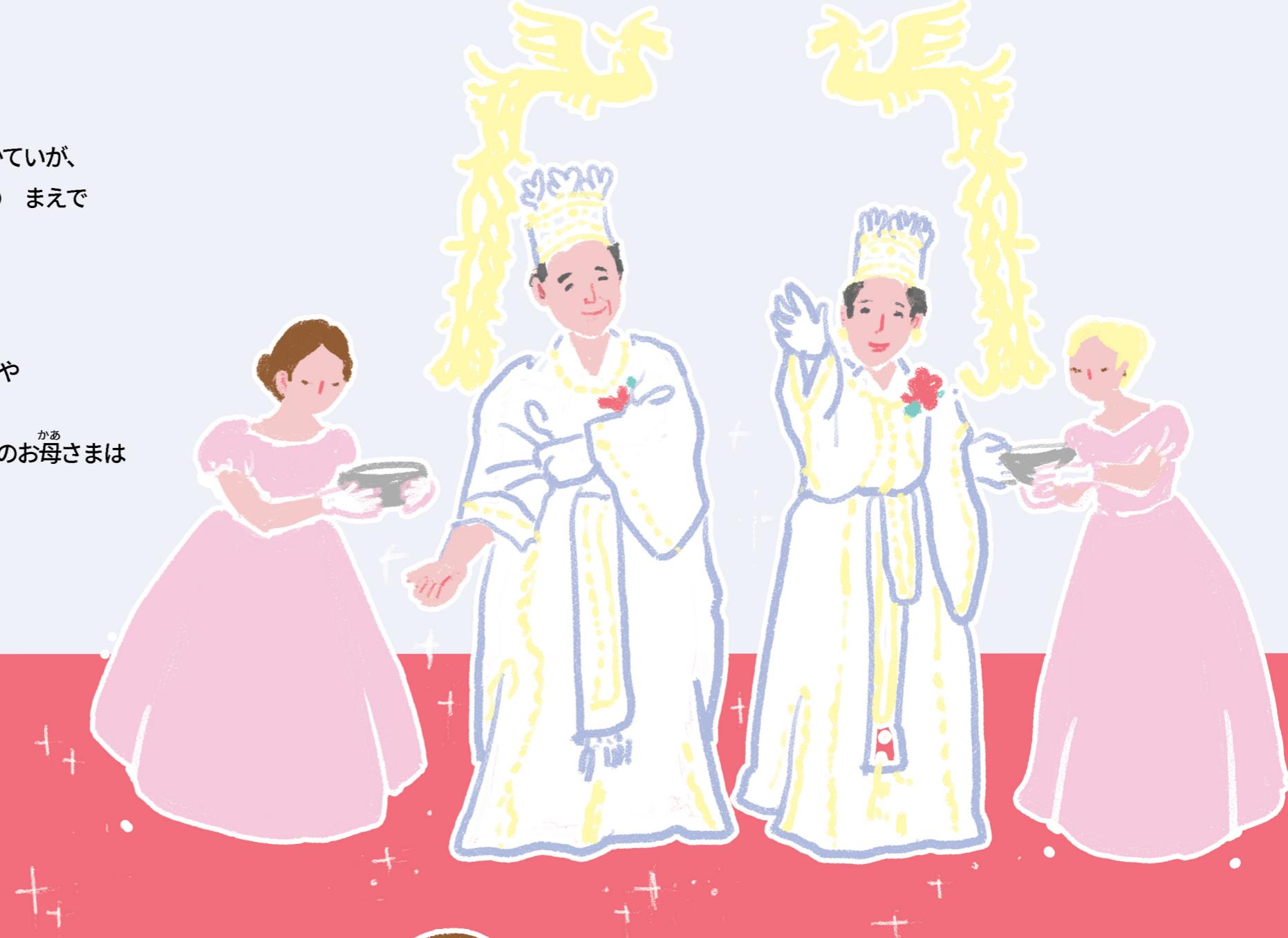
「しかし、しゅくふくけっこんを さずけるまえに サタンに むすこ、  
むすめを うばわれてしまった 神さま！  
かなしみの中で 6千年を すごされた 神さま！  
それでも あきらめなかつた 神さま！」

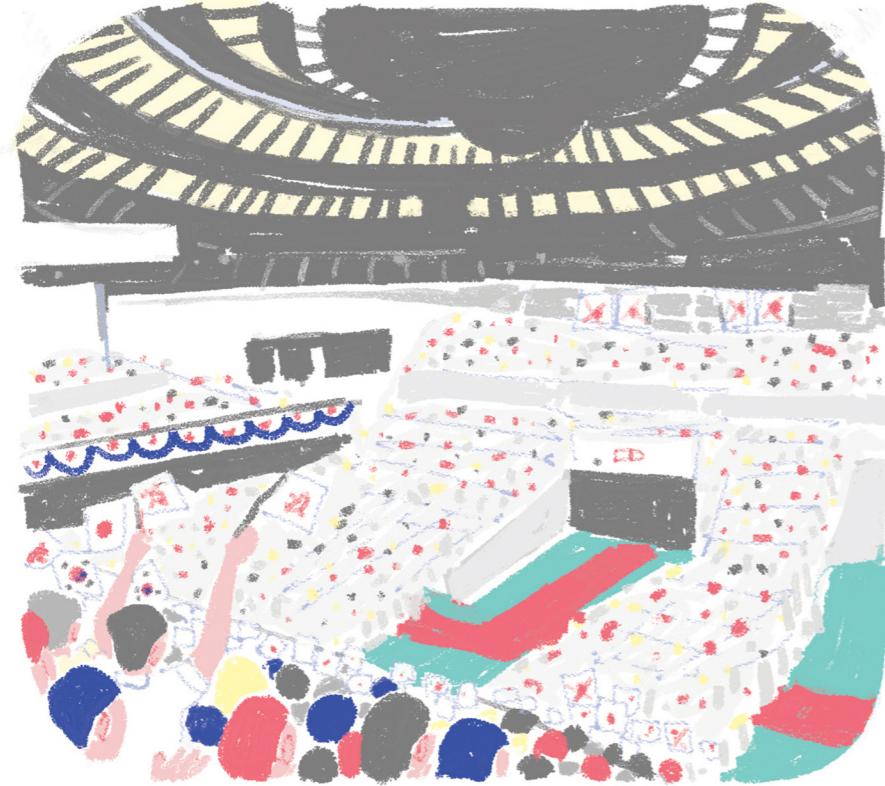
「これからは まことの父母に なった わたしたちが  
神さまの ねがいを かなえてさしあげます。  
サタンの ふところに いる あなたのむすこ、むすめを  
しゅくふくけっこんによって 神さまの ふところに つれもどしてきます」

「しゅくふくしきに さんかした ぜんなんぜんによと かていが、  
かみ 神さまと まことの父母さまと せかいと てんちゅうの まえで  
せいこんしたことを せんぶします！」

ぱ ち ば ち ば ち ば ち ば ち ば ち  
パチパチパチパチパチパチ

しゅくふくしきじょうに あつまた しんろうしんぶの かぞくや  
しつく 食口たちが おいわいの はくしゅを おくりました。  
まことのお父さまと いっしょに しゅれい 主礼として 立たれた まことのお母さまは  
このようすを 見つめながら よろこばれる かみ 神さまを おもって  
にっこりと ほほえまれました。





「お母さま、きょうは 大学で こうえんが あります」  
「そうね、さあ 行きましょう！」

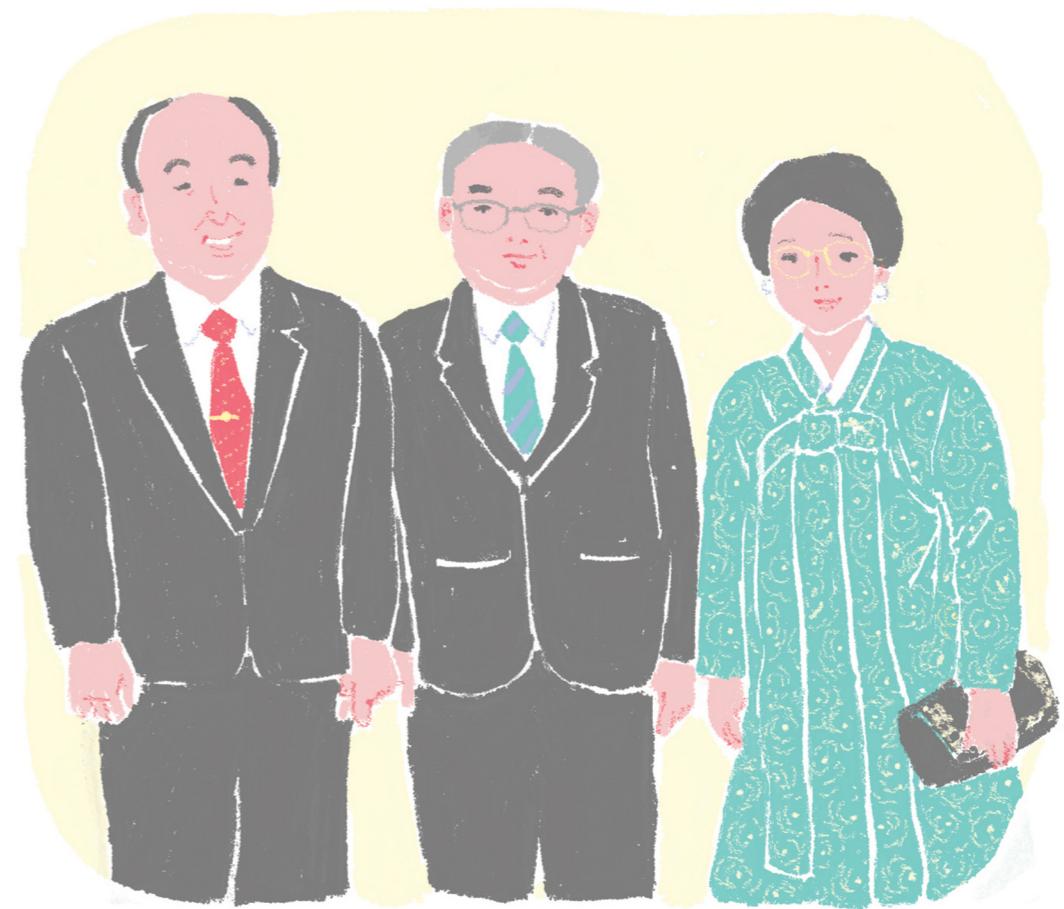
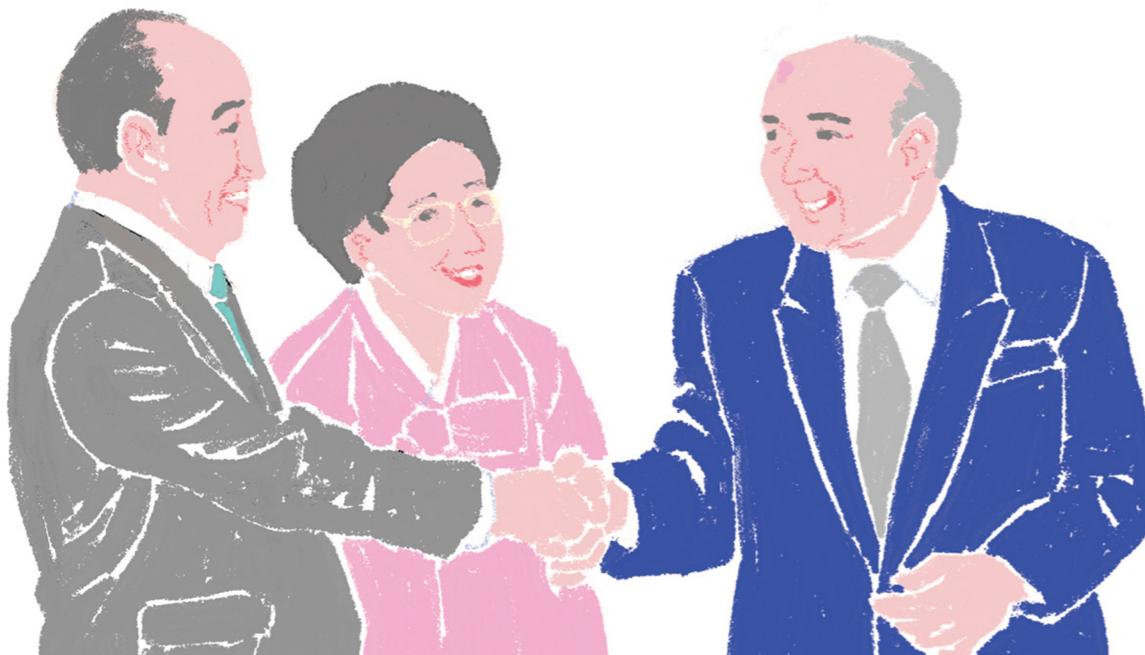
まことのお母さんは 韓国ぜんどの 大学を ちょくせつ まわり  
げんりのみことばを かたられました。  
大学の こうだんに 立って わかい 大学生たちに 神さまと  
まことの父母、げんりのみことばについて どうどうと かたられたのです。



「神さまを ちゅうしんに この せかいを ひとつの かぞくに しよう！」

まことのお父さまと まことのお母さまは このように  
ただ ひとつのことだけを かんがえていらっしゃいました。

ですから 神さまなど いないと いって 神さまを しんじようとしない  
きょうさんしゅぎの 国にも ちょくせつ 行って みことばを  
かたられました。  
いのちが あぶないほど しんこくで おそろしい ばしょも  
たくさん ありました。



しかし まことのお母さまは 神さまが まもってくださることを  
ごぞんじだったので いつも まことのお父さまと  
いっしょに こうどうされたのです。

「お父さま、ほんとうに おつかれさまでした。  
あいしています」

まことのお父さまは かぞえの 93さいで せいわされました。

まことのお母さまは あらゆる せいせいを つくして  
まことのお父さまの てんちゅうせいわしきを おこなわれました。  
そして かなしみに しずんでいる 食口たちを なぐさめ、  
いっしょに 天一國を なしとげようと はげまして くださいました。





まことのお母さんは 3年かん まことのお父さまの おはかである  
本郷苑で せいせいを つくされました。

あめ 雨が ふっても ゆきが ふっても 本郷苑を まもりながら おいのりを  
されました。

「お父さま、  
これからは 天の国で 神さまに はべりながら  
ゆっくり お休みになってください。  
この地に 生きている わたしたちが 神さまを ちゅうしんとする  
ひと 一つの かぞくの せかい、天一国を つくっていきます」

